厠

清水家の庭前のベランダの端には「厠」、手洗い所があります。この厠は客用で、家族は通常、別の場所にあるものを利用しました。江戸時代（1603—1867）の通例にもれず、このトイレは木製でしゃがんだスタイルで使用するため低い作りとなっていました。近代的な視点からは、これは不便な作りに見えるでしょうが、当時の主な衣服（主に着物）は容易にたくし上げることができたため、便利なものでした。

虫が集まらないよう厠内部は暗くしていました。トイレには木製の蓋が付いており、使っていない時はこれで蓋をしました。厠の直ぐ外側には水を入れた容器と柄杓が用意され、客はその場で手を洗うことができました。